

(別紙1)

管理運営状況 評価シート【令和3年度】

(評価日 令和4年6月29日)

1 施設の概要

施設名	岩手県立県北青少年の家
所在地 電話・FAX HP・電子メール	岩手県二戸市仁左平字放森 61-35 電話 0195-23-9511 FAX 0195-23-3874 ホームページ https://iwate-sposhin.jp/kenpoku/ 電子メール kenritukenpoku@echna.ne.jp
設置根拠	青少年の家条例
設置目的	(設置: 昭和58年10月14日) 次代の担い手である青少年に、恵まれた自然環境のなかで、規律ある共同宿泊生活を体験させ、友情、共同、奉仕等の相互扶助の精神を養い、地域社会の発展に寄与しうる自主的で創造性豊かな青少年の育成を図る。
施設概要	【敷地面積】132,344.97 m ² 【建物面積】8,399.12 m ² 【主な施設】○管理・研修棟 ○プレイホール ○宿泊棟 ○屋内スケート場 ○付帯施設(プラネタリウム他) ○研修機材等 ○駐車場
施設所管課	岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化財課 (電話 019-629-6171、メールアドレス DB0005@pref.iwate.jp)

2 指定管理者

指定管理者名	公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日(5年間)
連絡先	盛岡市みたけ1丁目10番1号 電話 019-641-1127

3 指定管理者が行う業務等

業務内容(主なもの)	1 施設等の供用に関すること。 2 施設等の維持管理に関すること。 3 施設の利用促進及び指導に関すること。 4 スケート場の一般利用における使用許可、料金の徴収に関すること。	
職員配置、管理体制	12名 (令和3年4月1日現在) (内訳) 正職員 1名 地域職員月額賃金 4名 地域職員時間額賃金 7名	組織図 事業団本部- 総括責任者-総括責任者補助 (正職員1) (地域月1) ┌ 事務(地域月1) ├ 技能(地域月2 地域時1) ├ 警備(地域時3) ├ 清掃(地域時2) └ 労務(地域時1) ※技能には、暖房運転・植栽管理含む

利用料金	附属施設	利用料金						
		個人使用				貸切使用		
	区分	小学校児童及び中学校生徒	高等学校生徒及び学生	一般	区分	料金を徴収しない場合	料金を徴収する場合	
	スケート場	普通利用料金(1回)	140	410	570	土曜日・休日の利用料金(1時間)	10,730	21,470
回数利用料金(6回)		700	2,050	2,850				
定期利用料金		競技関係者	2,800	8,200	11,400	その他の日の利用料金(1時間)	8,050	16,100
		その他の者	5,600	16,400	22,800			
附属の設備の利用料金	靴(1回)	120	360	470	附属の設備の利用料金	590	1,180	
	ロッカー(1回)	50						照明設備

開館時間	勤務時間 8時30分～17時15分 ※利用団体がある場合は、24時間 スケート場(11月1日～3月31日) 火～金 13:00～22:00 土・日・祝 10:00～22:00	休館日	毎週月曜日(ただし、臨時開所することがある。)、12月28日～1月4日、その他所長が定める臨時の休所日
------	---	-----	---

4 施設の利用状況

(単位：人)

(利用者数、稼働率等)	前期間平均	指定管理期間						備考
		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	期間平均	
第1四半期	4,175	2,971					2,971	
第2四半期	5,808	1,353					1,353	
第3四半期	6,760	6,736					6,736	
第4四半期	7,198	2,634					2,634	
年間計(実績)	23,941	13,694					13,694	
年間計(計画)		29,300	29,359	29,418	29,477	29,536		
スケート場実績	17,251	12,963					12,963	
スケート場計画		19,500	19,539	19,578	19,617	19,656		
合計年間実績	41,192	26,657					26,657	
合計年間計画		48,800	48,898	48,996	49,094	49,192		

5 収支の状況

(単位：千円)

区分	前期間平均	指定管理期間						備考
		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	期間平均	
収入	利用料金収入	2,873	2,797				2,797	
	指定管理料	62,243	69,101				69,101	
	自主事業収入	206	72				72	
	小計	65,322	71,970				71,970	
支出	人件費	20,015	22,942				22,942	
	維持管理費	44,737	47,655				47,655	
	事業費	0	0				0	
	自主事業費	241	91				91	
	小計	64,993	70,688				70,688	
収支差額	329	1,282				1,282		

6 利用者の意見等への対応状況

(1) 利用者意見（満足度等）の把握方法

把握方法	全利用団体へのアンケート調査による	実施主体	県北青少年の家
------	-------------------	------	---------

(2) 利用者からの苦情・要望

受付件数	苦情 23件、要望 14件、その他 一件		
主な苦情、要望等	対応状況		
扇風機が壊れていた。	感想・意見カードに扇風機が壊れていたという苦情があったことから交換の対応を迅速に行った。		
スケート場において新型コロナへの対応から、入場者を200人までに制限して実施したところ、それを上回る来場者があり、急遽、車内等で待つていただくこととしたが、携帯の機種によっては圏外となり、連絡が取れないことがあった。	200人を超えた場合に待つていただく場所を用意していなかったため、車内で待つていただいたが、急遽、プレイホール・ふれあいホール・研修生食堂等を開放して対応した。次回からは事前に待機場所を用意し、また職員を配置するなど事前の準備を整えたうえで対応することとした。		
スケート場食堂のメニューをもっと増やしてほしい。	定例の給食担当者会議で情報共有しながら対応していくこととした。		
イベント等で館内放送をしたところ、聞き取りづらかったという意見があった。	今後はイベント等の前に実際に使用し、アナウンスなどの状況等を確認しながら必要な対応をしていくこととするが、機器そのものがかなり古くなっており、必要な対応を県とも協議するなどしながら、検討していきたいと考えている。		
ふれあいホールが寒かった。	事前に打ち合わせ段階で寒い場所であると説明しており、今後も事前説明をしたうえで、利用団体の全員に情報が伝わるように必要な対応をとることとした。		
<p>その他利用者からの積極的な評価等</p> <p>1 職員の対応関係</p> <ul style="list-style-type: none"> 急遽ウォークラリーのコース変更、野外炊事場の変更等対応いただきありがとうございました。 準備不足でご迷惑をおかけしましたが、その都度助けていただき無事終えることができました。 初参加の宿泊合宿でしたが、その都度細やかに教えて頂いて助かりました。安心して活動できました。 子ども達や引率の職員にも分かりやすく、ひとつひとつ丁寧に教えて頂きました。 <p>2 施設設備の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> とてもきれいで気持ちが良かった。 中庭がきれいで、他の活動場所も子供に配慮されていると感じました。 コロナ対応をしつつ施設の準備をしていただきありがとうございました。 しっかりと清掃されており子どもたちも「きれいに使おう」という意識を持つことができた。 <p>3 食事の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> アレルギーの児童にも対応していただきありがとうございました。 美味しく大人も子供も大喜びでした。 とてもおいしかったです。おかわりもたくさんさせて頂きました。 バランスの取れたメニューを提供していただきありがとうございます。 <p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ここでしか味わえないニュースポーツを体験できた。この活動での学びを教育活動の展開に繋げます。 とても有意義な時間を過ごせました。 様々な変更にも丁寧に対応していただき感謝しております。子供たちへのあたたかな声かけ有難うございます。 カーリングを子どもたちと楽しむことができました。ありがとうございました。 			

7 業務点検・評価 (※)

(1) 業務の履行状況

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
管理業務等	1) 公の施設としての公共性を有することを十分に理解し、その趣旨を尊重した管理業務等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の設置目的に従って、安全な管理に万全を期し、充実した事業を実施し高い満足度を目指すとともに、透明な予算執行に努めた。 ・ 「生きる力」を育み、自然環境の中での多様な体験を通して主体的で創造豊かな青少年の育成に取り組んだ。 ・ 積極的に地域住民・学校・団体等との関わりを持ち、地域に開かれた親しまれる施設運営を目指す等、生涯学習の場の提供に努めた。 ・ 管理業務の遂行に当たって職員一人一人が地域社会の一員として県民の信頼を損なうことがないように信用失墜行為の禁止をはじめとするコンプライアンスを徹底した。 ・ 新型コロナウイルス感染症対策を遅滞なく実施し、公の施設として、利用者の安心・安全の確保に努めた。 	B
	2) 県民の平等な利用の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気軽にそして平等に利用できるよう公平な利用の確保に努めた。 ・ 誰でも気軽に参加できる自主事業を積極的に展開するなど県民どなたでも利用できる機会やプログラムを提供するよう努めた。 	
	3) 設置目的を効率的かつ効果的に達成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育部門である研修班と施設管理部門である総務班が密接に連携し、利用者第一の姿勢で青少年の健全育成、生涯学習の振興等設置目的を達成するよう努めた。 ・ 各種会議等において「利用のてびき」や「要覧」等を手交し、利用促進を図りながら、設置目的の効率的かつ効果的な達成に努めた。 ・ 県独自の緊急事態宣言により施設での研修ができなくなった団体や同宣言により一度キャンセルとなった団体に案内を通知して再度使用申請を受け付けた。 	

施設の利用状況	1) 目標値の達成 管理運営計画書に掲げる年間利用者数 48,800 人 (施設 29,300 人、スケート場 19,500 人)	年間利用者数 (対目標値) 施設 13,694 人 (15,606 人減) スケート場 12,963 人 (6,537 人減) 計 26,657 人 (22,143 人減)	B
	2) 上記目標値に向けた取組みと、増減内容の把握	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策を年度当初から実施しながら利用促進に努めたが、目標値に大きく届かなかった。 施設 (研修) 利用者数については、岩手緊急事態宣言発出に伴う臨時休所などにより一般研修のキャンセルや事業実施の取り止めなどが重なり、一度キャンセルした団体へ再度の利用案内を送付するなどしたが、利用者数を回復させるまでには至らなかった。 スケート場利用者数については、岩手緊急事態宣言が発令されるなどしたことにより、1 大会が中止となった。春休み中の子供会や児童クラブの研修利用について、国道看板やホームページに利用予定表を掲載するなどして利用案内周知に努めた。 	
	3) 施設利用促進に係る広報等の実施	<ul style="list-style-type: none"> 毎月地元 FM のラジオ番組に出演し、事業開催の案内や施設利用の広報を行った。 ホームページ等の更新頻度を高め最新情報を提供できるように努めた。 主催事業のチラシを作成し、関係小中学校、市町村教委、報道機関等へ配付した。また、チラシを持参し、近隣約 70 カ所の事業所 (公的施設、民間施設、商店など) を訪問し、掲示及び配布依頼の他、声掛けのお願いを行った。 各種団体の会議出席による広報活動、利用案内を行った。 	

事業の実施状況	管理運営計画に基づく青少年の健全育成に効果的な事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> 管理計画書に基づき自主事業6事業中5事業(1事業は新型コロナウイルス感染症のため中止)を実施した。 アンケートや事業の検証を行い事業に反映させた。 当所の運営全般について、外部の委員から意見等を伺う「県北青少年の家有識者会議」については、例年5月に実施していたが、新型コロナウイルス感染症のため、今回は開催を見送ることとした。 	B
会計業務の状況	適正な会計業務(収入・支出・契約等)の執行	<ul style="list-style-type: none"> 各種法令・例規等を常に参考にしながら、適正な契約業務とその執行に努めた。 入札業務も多いことから、不明な点等については本部とも協議をして業務を進めた。 	B
施設の維持管理状況	1) 施設設備の維持管理等業務の適切な実施	<ul style="list-style-type: none"> 専門業者による施設設備の点検を行うとともに、毎月1回点検担当職員による施設安全点検を行い、さらに毎日2回担当職員による巡回点検を実施しながら適切な維持管理等業務に努めた。 	B
	2) 公有財産の適切な管理	<ul style="list-style-type: none"> 体育備品に係る体育施設管理士による点検について、年1回実施しており、その点検結果も含め全ての点検結果を全職員で情報共有し、必要に応じて修繕するなど、公有財産の適切な管理に努めた。 	
	3) 備品について備品台帳との整合性を図る	<ul style="list-style-type: none"> 現有備品と備品台帳との整合性を図るため、点検等を定期的に行いながら整合性の確保に努めており、その結果を受けて、処分及び物品の所管換え手続きを行った。 	
記録等の整理・保管	各種帳票書類の適正な整理保管	<ul style="list-style-type: none"> ファイル管理簿により書類・帳票類は、適正に管理(整理・保管・廃棄)した。 	B

自主事業等の取組み	施設の設置目的に沿った、利用促進に繋がる方策に基づく事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々が誰でも楽しめる「ステラパル冬まつり」や「いきいきグラウンド・ゴルフ大会」などの参加型事業については、コロナウィルスの感染拡大を踏まえ、規模を縮小して開催した。また、3青少年の家連携事業である「親子 de チャレンジ」についても、小学生から大人まで一定の参加を得て開催した。 「クッパ」や「ニチレクボール」「ポッチャ」「キンボール」など、ニュースポーツの普及に引き続き努め、年齢や体力に合わせたプログラムを紹介し、利用促進に努めた。 	B
(施設所管課評価) ・成果のあった点 ・改善を要する点	<ul style="list-style-type: none"> 成果のあった点 自主事業において、地域の幅広い年齢層を対象にした参加型事業の実施や、ニュースポーツを取り入れたプログラムを実施し、施設の利用促進につなげた。 また、県独自の岩手緊急事態宣言に伴う臨時休所により活動ができなくなった団体については再度利用案内を送付するなどし、利用者の増加に向けて取り組んだ。 改善を要する点 利用者数については、新型コロナウイルス感染症の影響で減少しているが、引き続き利用促進につながる取り組みに努めて欲しい。 		B

(2) 運営体制等

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
職員の配置体制	各業務に適した職員及び必要な有資格者の適正な配置	<ul style="list-style-type: none"> 管理計画書のとおり常勤の総括責任者など各業務に適した職員を配置した。 各業務の経験者、有資格者を地元から採用し配置した。 	B
苦情、要望対応体制	利用に関する各種問い合わせや要望及びトラブル等の適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> 事業団クレーム対応要綱により苦情に対応する体制をとっている。 トラブル等はなかった。 	B
危機管理体制（事故、緊急時の対応）	災害時・緊急時の対応や、防犯・防災対策として、マニュアルの作成や訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> 事業団危機管理マニュアル要綱及び県北青少年の家危機管理マニュアルに基づき取り組んだ。 総合防災訓練を春と秋の2回実施した。 1回目 5月20日 (自衛消防訓練) 2回目 11月18日 	B

		<p>(夜間に対応した自衛消防訓練)</p> <ul style="list-style-type: none"> 熊、ハチ、蛇等に対する危険回避のため、活動前に職員が安全点検を行い、利用者の安全確保に努めた。 日常点検、月例点検等老朽化を意識した点検を実施し劣化損傷部分の早期発見に努めた。 昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症感染防止対策については、国や県教委、当事業団事務局の指示等のもと取り組んだ。特に新型コロナウイルス感染症患者が当所において7月に発生したことから、濃厚接触者等への対応などについて、二戸保健所の指示のものと的確に対応し終息に向けて所員一丸で取り組んだ。 	
コンプライアンスの取組み、個人情報の取扱い	基本協定に基づく秘密の保持、個人情報保護及び法令遵守の確保 個人情報に関する書類の適切な保管管理	<ul style="list-style-type: none"> 事業団職員コンプライアンスマニュアル及び岩手県教職員コンプライアンスマニュアルに基づいて研修や取組を実施した。 毎月定例の職員会議において、毎月1名の職員が順番にコンプライアンスに係る話を行った。 個人情報を収集する場合は、案内文書等に使用目的を限定する旨の記載をしている。 個人情報に関する書類は金庫及びキャビネット保管とするなど厳重に管理した。 職員全員から個人情報保護に係る誓約書を徴し、重要性の意識の徹底を図っている。 	B
県、関係機関等との連携体制	基本協定に基づく関係機関等との協力連携及び良好な関係の維持	<ul style="list-style-type: none"> 事業団本部と連絡等を密にし、県及び関係機関等との連携に努め、良好な関係を保持した。 	B
(施設所管課評価) ・成果のあった点 ・改善を要する点	<ul style="list-style-type: none"> 成果があった点 利用者の安全確保のための情報が職員間で共有されており、適切な運営がなされている。また、新型コロナウイルス感染症対策では、県と連携して施設を適切に管理運営した。 改善を要する点 特になし。 		B

(3) サービスの質

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
サービス向上の取組み	サービス向上のための研修等の実施	<ul style="list-style-type: none"> 服務規律の確保等を内容とするコンプライアンス研修を4月 	B

		<p>に実施するとともに、事業団主催の研修や外部研修（ツリークライマー講習会等）に参加し、資質の向上に努めた。</p>	
利用者サービス	<p>利用者サービス向上に向けた方策に基づく、適切な利用者サービスの実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 利用者の要望に応じた施設開所 2) 利用者の意見を反映させた青少年育成事業の実施 3) 青少年育成の場として適正な施設環境及び設備機能の維持（衛生環境保持、安全点検、修繕等） 4) 障がい者等特別な配慮が必要な利用者に対する柔軟な対応、施設設備の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間28日の臨時開所を実施し、利用者の要望に応えた。 ・ スケート場は、11月1日から開場を始め、12月31日、1月1日を除き、毎日夜10時まで開場した。 ・ 大会開催前にはスケート場を早朝に開場するなどサービス向上に努めた。 ・ スケート場については、一般利用のほか、スポーツ団体練習試合等向けに貸切利用を行い、利用者数増に努めた。 ・ 利用団体と詳細な事前打合せを行い、要望や意見を伺い、それらの要望等の一つひとつ応えるよう努めた。 ・ 清掃員が年末年始を除き毎日勤務し、衛生面に十分配慮した環境保持に努めた。 ・ 害虫防除を委託業務として実施し、適正な施設環境の保持に努めた。 ・ 安全点検を強化する計画をたて、既存のチェック方法に加えて、二重に安全点検を行う体制を維持して点検を実施した。 ・ 防雪シートカーテン取付など、優先順位を定めて修繕を実施し、適正な施設・設備環境等の保持に努めた。 ・ 特別支援学校等の研修において、事前打合せを従前どおり十分に行い、事故なく利用いただいた。 ・ 「施設要覧」、「利用のてびき」のほか、「季刊紙」を発行し、関係機関等に配付した。 ・ 各種会議等の場において、施設の利用について説明する機会を設けてもらい、県北青少年の家のPRを行った。 	B
利用者アンケート等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 利用者アンケートや意見箱の設置による利用者ニーズの把握 2) アンケート結果に基づく業務改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用団体から「研修団体票」、宿泊者から「感想・意見カード」を提出してもらい、以後の運営に反映させるとともに、館内に「利用者の声」として掲示するなど、利用者の理解を得られるように努めた。 	B

		<ul style="list-style-type: none"> 自主事業参加者のアンケート実施や食堂及びスケート場に意見箱を設置するなどし、利用者の要望、意向、評価等について、朝会、職員会議、給食関係者会議等で検討し、運営に活かした。 毎年実施している「利用者アンケートに係る自己評価」については、ホームページに掲載し、広く公表した。 	
(施設所管課評価) ・成果のあった点 ・改善を要する点	<ul style="list-style-type: none"> 成果のあった点 休所日の臨時開所や、大会開催前におけるスケート場の早朝開場等、サービス向上に努め、利用者のニーズに合わせた運営を行った。 利用者アンケートや意見箱に投函された要望・意見結果を職員で共有し、施設運営に活かしている。 改善を要する点 特になし。 		B

(4) サービス提供の安定性、継続性

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
事業収支	管理運営計画における収支の積算に対する適正な収支実績	<ul style="list-style-type: none"> 会計諸帳票は、公益法人会計基準に定められたとおり作成しており、運営計画との整合性が図られている。 予算の執行に当たっては、利用者に不便をかけないこと、施設運営に支障がないこと等を前提に、効率的な執行に努め、適切に処理した。 	B
指定管理者の経営状況	経営基盤の安定及び計画に沿った管理能力	<ul style="list-style-type: none"> 公益法人としての活動について、毎年、公益認定委員会の評価を受けており、適正な経営であるとの評価を得ている。 当事業団は、昭和60年の設立以来、借入金及び貸付金等はなく、健全な財務を維持している。 業務を適正に成し得るだけの有資格者、経験者を有しているほか、適時職員の資質向上にも努めており、十分な管理能力を保持していると考えられる。 	B
(施設所管課評価) ・成果のあった点 ・改善を要する点	<ul style="list-style-type: none"> 成果のあった点 概ね適正に運営されていると認められる。 改善を要する点 特になし。 		B

※（注1）県記載欄：「事業計画・県が求める水準」、「評価指標」「施設所管課評価」

指定管理者記載欄：「実績（自己評価）」

（注2）評価指標

- A：協定書、提案書等の内容について高レベルで実施され、また、計画を上回る実績（効果）があり、優れた管理がなされている。
- B：概ね協定書、提案書等の内容どおり実施され、計画どおりの実績（効果）があり、適切な管理が行われている。
- C：一部、改善・工夫を要する事項が見られたが、改善済み、または改善される見込みである。
- D：協定書等の内容に対し、不適切な事項が認められ、改善を要する。

8 指定開始年度から評価年度までの総合評価

(1) 指定管理者の自己評価

- | |
|--|
| <p>① 成果があった取組み、積極的に取り組んだ事項</p> <ul style="list-style-type: none">・ ホームページに加え、フェイスブックの活用や地元ラジオ局への毎月の生出演、地元ケーブルテレビでの事業広報、二戸管内の主要店舗に事業案内のポスター掲示、県内の学校へのチラシ配付等を積極的に行い、利用の周知を図った。・ 新型コロナウイルス感染防止対策として、消毒液の設置、体温測定、手洗いの徹底等の張り紙掲示を継続して行うとともに、基本的な当所の対応方針やスケート場マニュアル活用するなどして、利用者が安全・安心に研修等できるよう努めた。結果、主催事業を一部中止、規模縮小しながらも行うことができた。今後も、感染防止対策に万全を尽くし、主催事業等を行っていきたいと考えている。・ 年間28日の休所日の臨時開所を行ったほか、スケート場における大会開催時には、早朝に開場するなど、利用者サービスの向上に努めた。・ 毎日の巡回点検等の実施により利用者の安全を確保することができた。また、施設内の清掃を職員が細かいところまで行い、利用者から高い評価（清潔、きれい）をいただいた。 |
| <p>② 現在、苦慮している事項、今後、改善・工夫したい事項、積極的に取り組みたい事項</p> <ul style="list-style-type: none">・ 施設・設備全般の老朽化への対応。・ 携帯電話の通信環境について、施設の利用者から毎年のように改善要望が出ている。・ 児童生徒の減少や一団体当たりの人数の減少傾向、また宿泊利用から日帰り利用にシフトする件数の増加など、今後、利用者数が大きく減少する可能性が非常に高いことから、引き続き利用者のニーズを捉えて事業を実施していきたい。・ 毎年度利用している団体の継続利用促進に加え、児童クラブや高齢者団体、企業体等のうち未利用団体をターゲットにした利用促進活動を実施していきたい。また、ホームページやフェイスブックをはじめとしたSNSでの発信情報のあり方の検討や、企業・大学スポーツ団体などへの企画提案も視野に入れ、多様な方面で利用者の発掘を目指したい。 |
| <p>③ 県に対する要望、意見等</p> <ul style="list-style-type: none">・ 開所から39年が経過し、ボイラー設備、電気設備、水道設備、自動ドア設備、食堂設備などの施設・設備の老朽化に対応する計画的な改修等工事の実施をお願いしたい。・ 携帯電話の通信環境の改善に向けて、県の支援をお願いしたい。・ これからも県北青少年の家の施設の特長（プラネタリウムとスケート場）を十分に活かしながら、使命を果たす必要があると考えており、スケート場を使用した大規模な大会誘致とともに、天文現象のトピック学習等にも効果のあるプラネタリウムの更新を行うようお願いしたい。 |

(2) 県による評価等

- | |
|--|
| <p>① 指定管理者の運営状況について</p> <p>SNSや地元ラジオ局への出演、ポスター掲示等、事業案内を積極的に行うほか、施設の臨時開所・スケート場の早朝開場等、利用者のニーズに合わせた対応や利用促進につなげる事業を行った。利用者の安全確保のための対応等も適切に行っている。</p> |
|--|

② 県の対応状況について（自己評価）

昨年度同様に、毎月の定期報告により施設の管理状況・利用状況等を把握するとともに、施設・設備の老朽化が進んでいることから、修繕状況の把握に努めた。予算の確保及び工事の施行等、引き続き指定管理者と連携して適切な施設整備に努めたい。

③ 次期指定管理者選定時における検討課題等
特になし。

9 改善状況等

改善を要すると評価された項目（C、D評価の項目について）

該当なし

改善状況

（指定管理者から県への報告年月日：令和 年 月 日）

改善状況の確認

（確認年月日 令和 年 月 日）